

敦賀発電所2号機の原子炉手動停止の原因について（格納容器内調査結果の状況）

当社、敦賀発電所2号機（加圧水型軽水炉；定格出力116.0万キロワット）は、定格出力運転中のところ、7月12日午前6時05分、原子炉格納容器内のC、Dループ室前通路の火災報知器が発報するとともに、格納容器内サンプル水位上昇率高の警報が発報、1次冷却水の充てん流量の増加や格納容器じんあいモニタ等の上昇が確認されたことから、格納容器内で1次冷却水が漏えいしているものと判断し、午前6時24分から手動で出力を降下、午前6時48分電気出力8.1万KWで原子炉を手動停止した。なお、排気筒モニタ及び環境の放射線モニタについては、変化は認められていないことから、周辺環境への放射能の影響はない。

原子炉停止後、1次冷却水の圧力及び温度の降下作業を行い、17時には原子炉は低温停止状態（1次冷却材温度約92℃、圧力約27Kg/cm²）となった。格納容器内のじんあいモニタ及びガスモニタは降温降圧操作以降、低下傾向を示している。

<7月12日10時、17時43分発表済>

漏えい状況調査として、18時45分から格納容器内の立ち入り調査を行った結果、格納容器内地下1階（EL-0.3m）のCループ室通路側に設置された化学体積制御系再生熱交換器1台（全3台）の抽出側配管部で漏えいが確認された。このため、抽出系統配管の隔離操作（弁の閉止操作）を20時16分に完了した。

また、格納容器サンプ（A、B）が設置してある地下2階床面（EL-8.7m）の状況を確認した結果、漏えい水が床面より約5cmの高さまであるのを確認した。その後、7月12日23時30分から当該漏えい箇所を特定するため、漏えいが確認された化学体積制御系再生熱交換器の抽出側配管の保温材を取り外し、配管外観目視点検を行った結果、長さ約80mmの割れが確認された。

今後、割れの原因究明のための詳細調査を行う予定である。

一方漏えい水については22時から24時及び7月13日6時から8時にかけて液体廃棄物処理系へ移送を行った。

（通商産業省によるINESの暫定評価尺度）

基準1	基準2	基準3	評価レベル
—	—	1	1

以上

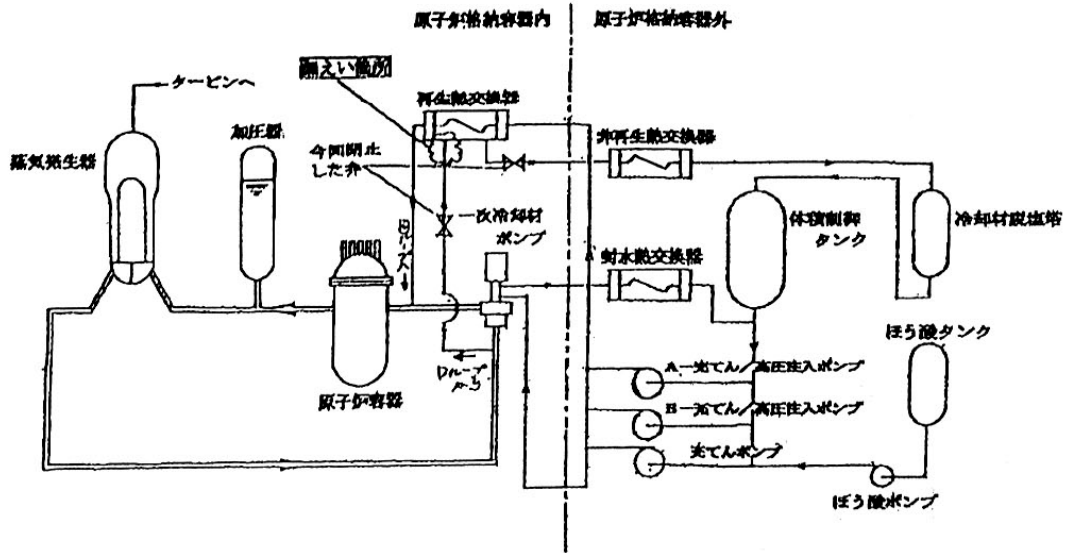
<関連パラメータ>

原子炉停止後の格納容器ガスモニタ・じんあいモニタ、加圧器圧力、1次冷却水温度は、以下のとおり。(7月13日7時00分現在)

	通常値	最大値	6時00分	7時00分
格納容器 ガスモニタ	1100cpm	2500cpm (6時45分頃)	1100cpm	1100cpm
格納容器 じんあいモニタ	90cpm	2100cpm (7時46分頃)	69cpm	72cpm
加圧器圧力	157Kg/cm ²	—	3.7Kg/cm ²	3.8Kg/cm ²
1次冷却水温度	290℃	—	41℃	41℃

添付資料1 敦賀発電所2号機 化学体積制御系概要図

敦賀2号機化学体積制御系概要図



再生熱交換器漏洩場所

